

「特別支援教育ほっかいどう」第31号の発刊に当たり**北海道立特別支援教育センター****所長 柏木 拓也**

当センターでは、本道における特別支援教育への理解を一層深め、その充実を図ることを目的として、毎年本誌を発刊し、道内各地の実践や取組を紹介しています。

近年、保護者が抱える子どもの発達や学びに関する不安や悩みは多様化しており、就学前の早い段階から適切な相談や支援につなげていくことが一層大切となります。

本号のテーマは「みんなではぐくむ～早期からの相談や支援～」です。子どもや育ちをはぐくむためには、家庭だけで抱え込むのではなく、早い段階から地域や関係機関がつながり、それぞれの立場で役割を果たしながら協働していくことが不可欠です。特に障がいのある子どもや発達や学びに関する不安がある子どもを育てる保護者に対しては、話を身近に聞いてもらうことのできる存在や、将来の見通しや不安を和らげる情報提供、そして、子どもの成長・発達のため、一緒に向き合ってくれる方々の存在がとりわけ重要となります。こうした状況を踏まえ、「みんなではぐくむ」という視点から本テーマを掲げることといたしました。

本号では、「こどもをまんなか」をキーワードに、関係する方々にご協力をいただき、それぞれの立場から大切にしている思いや役割、具体的な取組を紹介しています。特集1では保護者の方から、子どもの就学先を考えた際の思いや願いを、特集2では保健師の方から、子育てを共に支える保護者との関わりで大切にしていること、就学を見据えた時期における保護者との関わりで大切にしていることを、特集3では発達支援センターの方から、保護者との関わりで大切にしていることを、特集4では教育委員会の方から、保護者と子どもが安心して小学校入学を迎えるための就学説明会や、小学校就学に向けた支援と取組を取り上げています。

本誌が、保護者の皆さまの就学の際の不安を少しでも和らげるとともに、関係者の皆さまが連携の在り方を考えるきっかけとなり、子どもの確かな育ちを支える一助となることを願っております。